



平成29年6月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成29年5月12日

上場会社名 株式会社サニーサイドアップ 上場取引所 東
 コード番号 2180 URL http://www.ssu.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 次原 悦子
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 グループ管理本部 (氏名) 相田 俊充 TEL 03-6894-3233
 本部長
 四半期報告書提出予定日 平成29年5月15日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 無
 四半期決算説明会開催の有無： 無

百万円未満切捨て

1. 平成29年6月期第3四半期の連結業績（平成28年7月1日～平成29年3月31日）

(1) 連結経営成績（累計）（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年6月期第3四半期	9,940	5.8	393	△1.1	502	62.0	345	100.0
28年6月期第3四半期	9,392	3.1	398	-	310	489.6	172	-

(注) 包括利益 29年6月期第3四半期 226百万円 (15.8%) 28年6月期第3四半期 195百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年6月期第3四半期	94.34	-
28年6月期第3四半期	48.32	47.52

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年6月期第3四半期	5,438	1,578	27.3
28年6月期	5,773	1,402	21.8

(参考) 自己資本 29年6月期第3四半期 1,484百万円 28年6月期 1,259百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年6月期	-	5.00	-	25.00	30.00
29年6月期	-	0.00	-	-	-
29年6月期(予想)	-	-	-	10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

平成29年4月24日に発表しました「株式分割及び定款の一部変更並びに配当予想の修正に関するお知らせ」のとおり、平成29年6月期の期末配当予想を株式分割後の金額に変更しております。

3. 平成29年6月期の連結業績予想（平成28年7月1日～平成29年6月30日）

(％表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	13,151	△1.8	323	△27.8	461	95.4	378	-	103.18

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：有
連結範囲の除外 1社（社名）ENGAWA株式会社
（注）詳細は、添付資料8ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動）」をご覧ください。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有
（注）詳細は、添付資料8ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	29年6月期3Q	3,701,600株	28年6月期	3,697,600株
② 期末自己株式数	29年6月期3Q	32,124株	28年6月期	32,124株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	29年6月期3Q	3,665,491株	28年6月期3Q	3,579,103株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間においても好調だった上半期の勢いは継続しており、当社グループの営業活動は順調に進捗して好調な業績を達成するに至っております。その主な要因としては以下の四つが挙げられます。

1. 基幹事業であるマーケティング・コミュニケーション事業の安定継続的な収益の獲得
2. bills国内店舗の堅調な成長と海外店舗（ハワイ店、韓国一号店・二号店）の経営軌道化
3. スポーツ事業におけるソリューションの拡充と新たな顧客開発の奏功
4. SP・MD事業におけるリソースの選択と集中による業績の安定化

以上の要因により当第3四半期連結累計期間の連結業績は、売上高9,940百万円（前年同期比5.8%増）、営業利益393百万円（前年同期比1.1%減）、経常利益502百万円（前年同期比62.0%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益345百万円（前年同期比100.0%増）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

①マーケティング・コミュニケーション事業

他社の追随を許さないメディアネットワーク力と高い話題性を発揮する企画力を通じて、数多くの成功事例をつくり続けているPR事業では、当第3四半期連結累計期間においても競合動向が最も激しいと言われる菓子食品業界や飲料業界といった従来の得意分野で大きな強みを発揮しており、テレビを中心としたあらゆる媒体の露出面において抜群の成果を出し続けております。首都圏を中心に続々とオープンしている大型商業施設のPR案件の受注は更に加速化しており、4月にオープンし、日本中の話題を集めた銀座エリア最大の商業施設「GINZA SIX」の成功は、当四半期に展開した事前のPR活動が大きく寄与したものと自負しております。

PR発想と連動した効果的なイベントやキャンペーンを提供するプロモーション事業では、大手CVSチェーンや飲料メーカーが展開するキャンペーンをはじめ、話題性あふれる企業や自治体のイベント、最新のデジタル・プロモーション等の継続的受注に成功しており、企業ブランディングのトータルプロデュースを手掛けるコンテンツ&キャスティング事業等も順調に進捗した結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は4,295百万円（前年同期比4.7%増）となりました。

②SP・MD事業

魅力的な売りものだけでなく消費者との接点である場づくりやアプローチ手法まで考えた多角的な視野からのコンサルティング&アクティベーションを提供するSP・MD事業は、当第3四半期連結累計期間においても順調に進捗しております。新機能を搭載したサーバを次々と開発導入し、定番化を遂げたビールサーバのプレゼントキャンペーンを始めとした大型プレゼント案件の受注をはじめ、全国各地で展開中の社会貢献活動支援サービスも順調な成果を出し続けております。記録的に好調だった前年同期に比べて、当第3四半期連結累計期間の売上高は1,667百万円（前年同期比21.7%減）ではありますが想定した予算水準となっております。

③スポーツ事業

日本のスポーツビジネスを牽引してきた当社グループのスポーツ事業は順調な成長を続けており、当第3四半期連結累計期間においてもその勢いを継続しております。具体的には日本最大規模の公共スポーツイベントとなったマラソンイベントの成功による関連施策の奏功をはじめ、2019年、日本で初めて開催されるワールドカップを控えて盛り上がるラグビー関連や人気プロ野球球団のコミュニケーション活動の支援、当社所属の中田英寿、前園真聖らのポテンシャルを最大化した広告出演等のビジネスマッチングが安定継続的に成約に結びついており、その結果としての売上高は799百万円（前年同期比9.8%増）となりました。

④bills事業

「世界一の朝食」という強力なブランドイメージのもと、日本中を席卷したパンケーキブームがひと段落した後も単なるブームで終わらない魅力を発揮している「bills」は、ハワイ、韓国、そして福岡、銀座と高まるインバウンド需要に応じた出店を果たし、真のグローバルレストランブランドへの道を歩み続けております。客単価や客席稼働率等の改善の効果により収益性が格段に向上したハワイ店舗も含めた海外店舗の経営も軌道化しており、今期出店した福岡店、銀座店も含めて国内、海外店舗ともに着実な業績をあげた結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は前年同期の売上高2,287百万円を大きく上回り、3,042百万円（前年同期比33.0%増）となりました。

⑤開発事業

当社ならではのPR発想に基づく新たなビジネスを次々に輩出している開発事業では、時代のニーズに呼応した厳選された人財の紹介派遣を行う(株)サニーサイドアップキャリア、独自のノウハウを発揮するPRブティック、(株)エアサイドの二社が稼働しており、当社グループの中長期的な発展の原動力となるべく収益化に向けた計画の実践に積極的に取り組んでおります。尚、他社資本を広く募って企業成長を図る計画であったENGAWA(株)の資本政策により当第3四半期連結会計期間より持分法適用の範囲に変更した結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は136百万円（前年同期比8.3%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における当社グループの資産合計は、5,438百万円（前連結会計年度末比335百万円減）となり、資産の内訳につきましては、流動資産が3,682百万円（同618百万円減）、固定資産が1,755百万円（同282百万円増）であります。また、負債合計は、3,859百万円（同512百万円減）となり、負債の内訳につきましては、流動負債が2,527百万円（同677百万円減）、固定負債が1,331百万円（同165百万円増）であります。純資産合計は、1,578百万円（同176百万円増）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、平成29年2月8日に発表しました「平成29年6月期第2四半期連結累計期間の業績予想値と実績値との差異、並びに、通期連結業績予想値の上方修正に関するお知らせ」における平成29年6月期の連結業績予想（平成28年7月1日～平成29年6月30日）から変更はありません。

なお、業績予想につきましては、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。今後、様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,052,945	1,212,816
受取手形及び売掛金	2,539,988	1,522,172
商品及び製品	7,866	33,754
未成業務支出金	311,213	407,195
原材料及び貯蔵品	26,393	31,426
その他	366,786	479,816
貸倒引当金	△4,551	△4,779
流動資産合計	4,300,642	3,682,401
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	472,311	616,215
土地	508,701	508,701
その他(純額)	99,413	121,331
有形固定資産合計	1,080,426	1,246,248
無形固定資産		
のれん	11,326	-
その他	1,152	1,009
無形固定資産合計	12,479	1,009
投資その他の資産		
その他	443,349	569,813
貸倒引当金	△63,429	△61,406
投資その他の資産合計	379,919	508,407
固定資産合計	1,472,825	1,755,665
資産合計	5,773,467	5,438,066
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,212,467	1,011,410
短期借入金	839,907	610,000
1年内返済予定の長期借入金	247,626	242,712
未払法人税等	91,405	134,131
賞与引当金	-	102,058
その他	813,413	427,008
流動負債合計	3,204,821	2,527,321
固定負債		
長期借入金	732,396	833,094
資産除去債務	53,484	72,459
その他	380,630	426,209
固定負債合計	1,166,510	1,331,763
負債合計	4,371,331	3,859,085

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成28年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	475,518	478,399
資本剰余金	570,597	626,762
利益剰余金	129,594	383,774
自己株式	△30,281	△30,281
株主資本合計	1,145,428	1,458,655
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,677	3,389
為替換算調整勘定	111,193	21,960
その他の包括利益累計額合計	113,870	25,350
新株予約権	40,378	41,136
非支配株主持分	102,457	53,839
純資産合計	1,402,135	1,578,981
負債純資産合計	5,773,467	5,438,066

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年7月1日 至平成28年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年7月1日 至平成29年3月31日)
売上高	9,392,715	9,940,083
売上原価	7,890,889	8,320,516
売上総利益	1,501,825	1,619,567
販売費及び一般管理費	1,103,547	1,225,740
営業利益	398,278	393,827
営業外収益		
受取利息	461	779
受取配当金	354	365
持分法による投資利益	646	-
為替差益	-	112,429
受取家賃	28,725	27,058
その他	12,100	9,571
営業外収益合計	42,289	150,204
営業外費用		
支払利息	7,917	6,889
デリバティブ評価損	16,982	-
為替差損	85,520	-
持分法による投資損失	-	21,240
賃貸費用	12,059	11,152
その他	7,761	2,053
営業外費用合計	130,241	41,336
経常利益	310,326	502,695
特別利益		
固定資産売却益	4,914	3,384
子会社株式売却益	-	6,054
新株予約権戻入益	-	618
特別利益合計	4,914	10,057
特別損失		
固定資産除却損	1,587	-
特別損失合計	1,587	-
税金等調整前四半期純利益	313,653	512,753
法人税等	163,642	197,982
四半期純利益	150,011	314,771
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△22,932	△31,045
親会社株主に帰属する四半期純利益	172,943	345,816

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成27年7月1日 至 平成28年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成28年7月1日 至 平成29年3月31日)
四半期純利益	150,011	314,771
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△2,809	712
為替換算調整勘定	48,198	△89,232
その他の包括利益合計	45,388	△88,520
四半期包括利益	195,399	226,250
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	218,332	257,296
非支配株主に係る四半期包括利益	△22,932	△31,045

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

(連結の範囲及び持分法適用の範囲の変更)

当社の連結子会社であったENGAWA株式会社は株式の一部を譲渡したことにより持分比率が低下したため、当第3四半期連結会計期間より連結の範囲から除外し、持分法適用の範囲に含めております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第3四半期連結累計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間（自平成27年7月1日 至平成28年3月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	マーケティング・コミュニケーション事業	S P・MD 事業	スポーツ 事業	bills 事業	開発 事業	計		
売上高								
外部顧客への 売上高	4,101,494	2,128,135	727,480	2,287,008	148,595	9,392,715	-	9,392,715
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	11,507	234,154	4,820	1,476	35,789	287,748	△287,748	-
計	4,113,002	2,362,290	732,300	2,288,485	184,384	9,680,463	△287,748	9,392,715
セグメント利益 又は損失 (△)	582,028	227,463	95,964	△998	△72,007	832,450	△434,172	398,278

(注) 1. セグメント利益又は損失 (△) の調整額の内容は以下のとおりであります。

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間
セグメント間取引消去	31,954
全社費用 (※)	△466,126
合計	△434,172

(※) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失 (△) は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成28年7月1日 至平成29年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	マーケティング・コミュニケーション事業	SP・MD 事業	スポーツ 事業	bills 事業	開発 事業	計		
売上高								
外部顧客への 売上高	4,295,166	1,667,144	799,087	3,042,448	136,237	9,940,083	-	9,940,083
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	4,857	172,284	8,171	4,315	50,745	240,373	△240,373	-
計	4,300,023	1,839,428	807,258	3,046,763	186,982	10,180,457	△240,373	9,940,083
セグメント利益 又は損失(△)	553,918	54,934	126,978	70,881	△48,167	758,546	△364,719	393,827

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額の内容は以下のとおりであります。

(単位:千円)

	当第3四半期連結累計期間
セグメント間取引消去	44,652
全社費用(※)	△409,371
合計	△364,719

(※) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。